佐藤伸行教授　略年譜および業績目録

本　籍　山形県
現住所　大阪府茨木市

略歴

昭和35年11月　山形県酒田市生まれ
昭和54年３月　青森県立青森高等学校卒業
昭和60年３月　早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
昭和60年４月　時事通信社外信部記者
昭和62年４月　時事通信社神戸総局記者
平成２年８月　時事通信社ハンブルク支局特派員
平成５年４月　時事通信社ベルリン支局特派員
平成７月５月　時事通信社外信部記者
平成10年５月　時事通信社ウィーン支局特派員
平成15年４月　時事通信社外信部次長
平成18年12月　時事通信社ワシントン支局特派員
平成19年10月　時事通信社ワシントン支局長
平成21年２月　時事通信社外信部編集委員・外信部次長
平成27年４月　追手門学院大学経済学部経済学科教授
平成29年４月　追手門学院大学経済学部副学部長（令和５年３月まで）
令和８年３月　追手門学院大学退職

業績

【単著書】
『世界最強の女帝メルケルの謎』、平成28年２月、文春新書（文藝春秋）
『ドナルド・トランプ～劇画化するアメリカと世界の悪夢』、平成28年８月、

文春新書（文藝春秋）

【共著書】

『世界王室マップ』、平成９年２月、時事通信社、名越健郎、佐藤伸行、北原斗紀彦他、担当範囲：サウジアラビア、オーストリア、ドイツ

【共訳書】

『世紀末宗教戦争マップ』、平成８年６月、時事通信社　佐藤伸行、名越健郎、杉山文彦＜担当翻訳部分＞旧ユーゴスラビア（24-46頁）、北アイルランド（61-75頁）、イスラエル（140-160頁）、ウェーコのブランチ・デビディアン（216-226頁）<増補書下ろし>『絶えざる宗教ホラー＝オウム、米国、中東、ロシア…聖なる憎悪の悲劇は続く』（240-256頁）

【論文（単著）】

『ドイツにはびこる人種主義の妖怪 ―ネオナチの外国人襲撃、平成３年12月、世界週報（1991年12月10日号）、51-55頁、時事通信社

『ウォルフガング・ショイブレ ―車椅子の次期首相候補』、平成４年３月、フォーサイト（1992年３月号）、58-59頁、新潮社

『ドイツを覆う宴の後の憂鬱 ―旧東独の負の遺産に押しつぶされる巨人』平成４年４月世界週報（1992年４月14日号）、16-19頁

『欧米に冷水浴びせたボスニア選挙』、平成10年10月、世界週報（1998年10月27日号）、20-21頁、時事通信社

『セルビア民族主義に脈々と流れる「滅びの美学」』、平成10年11月、世界週報（1998年11月10日号）、8-9頁、時事通信社

『欧州統合で深まる中・東の亀裂 ―ユーロ導入という「地政学的ビッグバン」の衝撃』、平成11年１月、フォーサイト（1999年１月号）、38-39頁、新潮社

『実質的な領土喪失もたらした「第２次コソボの敗戦」』―「終わりの始まり」迎えたミロシェビッチ大統領』、平成11年７月、世界週報（1999年７月27日号）、10-13頁、時事通信社

『現場で見た劇的「ユーゴ10月革命」』平成12年11月、世界週報（2000.11.7号）、6-9頁、時事通信社
『中・東欧に摩擦をもたらす「大ハンガリー主義」』、平成13年10月、世界週報（2001.10.23号）、28-30頁、時事通信社
『出生率の異常な低下がもたらす中・東欧の緊迫』、平成14年８月、フォーサイト（2002年８月号）、90-91頁、新潮社
『カスピ海原油巡る「グレートゲーム」―NATO第２次東方拡大の狙い』、平成14年12月、世界週報（2002.12.24号）、14-15頁、時事通信社
『試練に立つ大西洋同盟 ―イラク後の米欧関係を読む』、平成15年８月、改革者（2003年８月号）所収、政策研究フォーラム
『EU政治統合の深化見据える ―欧州危機通じて主導権握ったドイツ』、平成24年２月、改革者（2012年２月号）所収、政策研究フォーラム
『「対日包囲」の先頭に立つメルケル独首相』、平成25年１月、フォーサイト電子版、新潮社
『事前に反発想定の必要あり ―TPPは中国を律する新秩序だ』、平成25年３月、改革者（2013年３月号）、22-25頁、政策研究フォーラム
『「焼身自殺」相次ぐブルガリアの絶望』、平成25年４月、フォーサイト電子版、新潮社
『「独中同盟」は西側のリスク要因と化す』、平成26年７月、"フォーサイト電子版、（新潮社
『「ユーラシア戦略」始動か ―中国沿岸からバルト海への大動脈握るドイツ』、平成26年９月、改革者（2014年９月号）、26-29頁、政策研究フォーラム
『「オバマ流」が混迷に拍車 ―先の見えないシリア内戦とアメリカ』、平成26年11月、改革者（2014.11月号）、22-25頁、政策研究フォーラム
『欧州に亀裂もたらす「サウスストリーム」』、平成26年11月、フォーサイト電子版、新潮社
『ロシア「サウスストリーム」中止の衝撃：新局面のエネルギー地政学』、平成26年12月、フォーサイト電子版、新潮社
『ECB量的緩和とドイツの「距離感」』、平成27年１月、フォーサイト電子

版、新潮社
『何ゆえの訪日か？「メルケル独首相」が示した「バランス感覚」の妙』、平成27年３月、フォーサイト電子版、新潮社
『新次元のドイツ歴史認識』、平成27年７月、海外事情（2015．７・8号）、102-114頁、拓殖大学海外事情研究所
『「欧州の支配者」メルケルを襲う最大の試練』、平成28年11月、文藝春秋オピニオン2017年の論点、108-109頁、文藝春秋
『トランプはリスクを恐れない』、平成28年12月、東洋経済（2016年12月号）所収、東洋経済新報社
『「綱渡り続くメルケル ―難民大量流入後のドイツ」、平成28年12月、海外事情（2016年12月号）、37-52頁、拓殖大学海外事情研究所
『NATOの危機、東欧に広がる不安』、平成29年１月、コメントライナー、時事総合研究所
『つきまとう微妙な負のイメージ ―アメリカのリベラル』、平成29年６月、改革者（2017年６月号）、52-55頁、政策研究フォーラム
『移民のせいでドイツが亡くなる』、平成29年６月、月刊WILL（2017年６月号）、214-222頁、ワック出版
『慰安所はナチス収容所と同一視されていた』、平成29年７月、月刊文藝春秋（2017年７月号、434-435頁、文藝春秋
『日本は北の反面教師か』、平成29年８月、コメントライナー、時事総合研究所
『メルケル流「脱政治」の後遺症』、平成29年９月、コメントライナー、時事総合研究所
『４選見据えるメルケル ―ドイツ総選挙』、平成29年８月、改革者（2017年８月号）、22-25頁、政策研究フォーラム
『メルケル４選で独中提携は深化』、平成29年９月、JANET、時事通信社
『ドイツの漂流が象徴するEU危機』、平成29年12月、JANET、時事通信社
『極右の枠超えAfDに支持』、平成29年12月、新聞研究（2017年12月号）所収、日本新聞協会
『欧州の女帝、後継人事に布石』、平成30年３月、JANET、時事通信社

『深化するドイツ歴史認識』、平成30年３月、コメントライナー、時事総合研究所

『摩擦の歴史としての米欧関係』、平成30年11月、改革者（2018. 11月号）、62-62頁、政策研究フォーラム

『翻訳で鍛える～文章の解体・言葉の再構築』、平成31年３月、追手門学院大学基盤教育論集（６）、130-132頁

『問い直される米欧「大西洋同盟」』、令和元年７月、改革者2019年（７月号）、6-9頁、政策研究フォーラム

『ドイツ初の「緑の首相」誕生か』、令和元年９月、海外事情（2019年９・10月号）、62-75頁、拓殖大学海外事情研究所

『ドイツ政治、激変期に』、令和元年10月、メディア展望（2019年10月号）、14-17頁、新聞通信調査会

『英EU離脱で加速するNATOの空洞化』、令和元年12月、ろんだん、国家基本問題研究所

『EUは「中国との接続」に舵を切る』、令和２年２月、ろんだん、国家基本問題研究所

『EUは第２神聖ローマ帝国へ』、令和２年４月、ろんだん、国家基本問題研究所

『新次元のドイツ歴史認識』、令和２年５月、コメントライナー、時事総合研究所

『メルケル媚中演説の衝撃』、令和２年６月、ろんだん、国家基本問題研究所

『惨敗に終わったトランプの「コロナの戦争」』、令和２年６月、改革者（2020年６月号）、24-25頁、政策研究フォーラム

『「欧州のトロイの木馬」と化すセルビア』、令和２年８月、コメントライナー、時事総合研究所

『ドイツの親中政策に変化の兆しも』、令和２年８月、ろんだん、国家基本問題研究所

『欧州の対中政策、曲がり角に』、令和２年９月、コメントライナー、時事総合研究所

『米中双方と距離、「第３極」目指す欧州』、令和２年９月、国家基本問題研究所、ろんだん、国家基本問題研究所

『復旧容易でない米欧関係』、令和２年11月、コメントライナー、時事総合研究所

『メルケル政権のレガシー』、令和３年３月、JANET、時事通信社

『警戒すべき「EUの中庭」の中国傾斜』、令和３年５月、ろんだん、国家基本問題研究所

『欧州、対中関係を「凍結」』、令和３年５月、コメントライナー、時事総合研究所

『メルケル独首相の残す外交遺産』、令和３年７月、コメントライナー、時事総合研究所

『AUKUSで再び動揺する米欧』、令和３年11月、コメントライナー、時事総合研究所

『ドイツ新政権の外交展望』、令和３年12月、JANET、時事通信社

『ロシア、大規模瀬戸際戦術か』、令和３年12月、ろんだん、国家基本問題研究所

『米露協調は可能か』、令和４年１月、コメントライナー、時事総合研究所

『ロシア軍「拙劣な用兵」の裏』、令和４年３月、コメントライナー、時事総合研究所

『ドイツからの教訓』、令和４年４月、ろんだん、国家基本問題研究所

『ドイツ武器輸出解禁の背景』、令和４年５月、コメントライナー、時事総合研究所

『ロシアが招いたNATOの「北方拡大」』令和４年５月、ろんだん、国家基本問題研究所

『ドイツ、原発めぐり苦渋の決断』、令和４年９月、コメントライナー、時事総合研究所

『グローバル化するNATO ―日本は最前線国家』、令和４年７月　JANET、時事通信社

『ドイツの対中「朝貢外交」再開に警戒せよ』、令和４年11月、ろんだん、国家基本問題研究所

『「中国夢」から覚め切れぬドイツ』、令和４年11月、コメントライナー、時事総合研究所
『ドイツ、超移民大国に』、令和５年１月、JANET、時事通信社
『献辞』、令和５年２月、追手門経済論集 57（2）
『欧州の地政学的目覚め』、令和５年３月、国家基本問題研究所紀要第３号、69-87頁、国家基本問題研究所
『台湾有事シナリオに潜む対日懸念』、令和５年４月、コメントライナー、時事総合研究所
『生成AI、最大のリスクは「隷従」』、令和５年６月、コメントライナー、時事総合研究所
『中国は欧州の戦略的自律につけ入る』、令和５年７月、ろんだん、国家基本問題研究所
『色あせる一帯一路』、令和５年８月、コメントライナー、時事総合研究所
『険しい対中「デリスキング」の道』、令和５年10月、コメントライナー、時事総合研究所
『日本の凋落はドイツへの警告』、令和５年12月、コメントライナー、時事総合研究所
『ドイツで徴兵制論議再燃』、令和６年３月、コメントライナー、時事総合研究所
『独AfDは中露のトロイの木馬』、令和６年５月、コメントライナー、時事総合研究所
『NATOが見据える「戦争の常態化」』、令和６年７月、ろんだん、国家基本問題研究所
『露ハイブリッド攻撃、新局面に』、令和６年７月、コメントライナー、時事総合研究所
『大学生の非正規化』、令和６年８月、改革者、56-56頁、政策研究フォーラム
『危ういアジア版NATO構想』、令和６年９月、コメントライナー、時事総合研究所
『新局面の日・NATO協力』、令和６年12月、コメントライナー、時事総合研究所

『次期ドイツ首相候補は異質な保守派』、令和７年２月、コメントライナー、時事総合研究所

『旧東独の遅れてきた勝利 ―ドイツ総選挙分析』、令和７年４月、JANET、時事通信社

『次期教皇選びに関する考察』、令和７年５月、コメントライナー、時事総合研究所

『トランプ革命を動かすキリスト教国家主義』、令和７年７月、改革者（2025・7月号）、18頁-21頁、政策研究フォーラム

『ウクライナ停戦の機、熟さず』、令和７年７月、コメントライナー、時事総合研究所

『米国は内戦に向かうのか』、令和７年９月、コメントライナー、時事総合研究所

『核軍拡回避も狙う』、令和７年11月、コメントライナー、時事総合研究所

【その他コラム・エッセイなど】

『米国と秘密結社の関係は』、平成21年９月、改革者（2009年9月号）所収、政策研究フォーラム

『ドイツの不思議な磁場の日』、平成21年10月、改革者（2009年10月号）所収、政策研究フォーラム

『オバマは広島に来るか』、平成21年11月、改革者（2009年11月号）所収、政策研究フォーラム）

『バルカンの火薬庫は除去されたか』平成21年12月、改革者（2009年12月号）所収、政策研究フォーラム）

『終末論は不滅なり』、平成22年 1月、改革者（2010年１月号）所収、政策研究フォーラム

『「オバマ教」の源流は』、平成22年２月、改革者（2010年２月号）所収、政策研究フォーラム

『タイガー・ウッズと「緋文字」』、平成22年３月、改革者（2010年３月号）所収、政策研究フォーラム

『ヒトラーの髑髏の謎』、平成22年４月、改革者（2010年４月号）所収、政

策研究フォーラム
『ファティマの予言再考』、平成22年５月、改革者（2010年５月号）所収、政策研究フォーラム）
『ドイツがユーロを捨てる日』、平成22年６月、改革者（2010年６月号）所収、政策研究フォーラム
『孤独な地球人』、平成22年７月、改革者（2010年７月号）所収、政策研究フォーラム
『日本人と自決』、平成22年８月、改革者（2010年８月号）所収、政策研究フォーラム
『人生を決めるのはやはり情熱』、平成25年４月、改革者（2013年３月号）56-56頁、政策研究フォーラム
『鷹揚に構えたいが』、平成25年５月、改革者（2013年５月号）、56-56頁、政策研究フォーラム
『遥かなインパール』、平成25年６月、改革者（2013年６月号）56-56頁、政策研究フォーラム）
『「おフランス」随想』、平成25年７月、改革者（2013年７月号）56-56頁、政策研究フォーラム
『タクシードライバーに聞け』、平成25年８月、改革者（2013年８月号）56-56頁、政策研究フォーラム
『キャッチコピーは要注意』、平成25年９月、改革者（2013年９月号）56-56頁、政策研究フォーラム
『「白河越え」を待ちながら』、平成25年10月、改革者（2013年10月号）56-56頁、政策研究フォーラム
『東北とビスマルクの密議』、平成25年11月、改革者（2013年11月号）56-56頁、政策研究フォーラム
『死体は語る』、平成25年12月、改革者（(2013年12月号）56-56頁、政策研究フォーラム）
『失われたマケドニア』、平成26年１月、改革者（2014年１月号）56-56頁、政策研究フォーラム
『永遠なる賊軍』、平成26年２月、改革者（2014年２月号）58-58頁、政策研

究フォーラム

『天才も緊張する』、平成26年４月、改革者（2014年４月号）58-58頁、政策研究フォーラム

『「詐話師」との戦い』、平成26年５月、改革者（2014年５月号）58-58頁、政策研究フォーラム

『「東海」随想』、平成26年６月、改革者（2014年６月号）58-58頁、政策研究フォーラム

『新聞力』、平成26年７月、改革者（2014年７月号）58-58頁、政策研究フォーラム（以上）